

待降節第2主日

福音朗読 ルカ 3・1-6

2024.12.8 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
尾高修一神父(長崎教区司祭)

皆さんは教会の教えの中で聖変化について学んでおられると思います。ミサの中で司祭がパンを取って、祈りの言葉を唱え、そして按手をすると、そのパンがイエス様の体になる。皆さんはそのことを心から信じていることができますか。どうでしょうか。

見た目がなかなか変わらないですから、どうしてこれがイエス様の体なんだろうと疑問に思う方は多分おられるのではないかなと思います。教会はそう教えているけれども本当かなと思っている方は多分いらっしゃるでしょう。

神学的な難しい説明も確かに色々あるんですけども、わたしも——ちょっと出来の悪いわたしにとっては——よくわからない説明もありまして、その全てを理解することはできません。しかし、わたしが受け入れようとしていることは、「このわたしの頭ではよく理解できないけれども、でもイエス様がそうおっしゃったんだから、きっとそうだ。わたしもそのことを信じます」、こういうことです。つまりイエス様が語る言葉は偽りがなく、いつも真実で、その通りに実現される。そのことを信仰を持って受け入れるならば、たとえイエス様がおっしゃることが「これどうなんだろうか。本当なんだろうか」と自分の頭ではよく理解できなくても、信仰を持って受け入れることができるのではないかと思うんです。

だから皆さんがご聖体をいただくときに、司祭が「キリストの御おんからだ体」と言って皆さんに配りますけれども、「これが本当にイエス様の体なのかな」と思いながらも、でも「わたしの理解を超えているのでわたしにはよくわからないけれども、でもイエス様、あなたがそうおっしゃったから、あなたがあの最後の晩餐の時、パンを取って『これはわたしの体です』とあなたがそうおっしゃったから、わたしはそのことを信じます。わたしもそのことをあなたと一緒に分かち合いたいです。わたしもそのことを信じたいです」、そういう気持ちになるような気がします。

さて、今日の福音の中で「神の言葉が荒野でザカリアの子ヨハネに降った」（ルカ 3・2）という一文がありました。神様の言葉が時の権力者ではなくてこの洗礼者ヨハネのもとに降ったと言うんです。神様の言葉にはいつもメッセージがあります。わたしたちに伝えたいメッセージがあります。だから神様が語るんです。そのメッセージが今日洗礼者ヨハネに託されました。ヨハネの口を通して語られるこの神様の言葉をわたしたちも神の言葉として、偽りのない真実な言葉として、そしてまたそれが必ず実現される言葉として受け止めたいというふうに思います。

この洗礼者ヨハネは罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。それまで人間的な弱さや罪によって神様から離れた生活を送っていたイスラエルの民に対して、洗礼者ヨハネの口を通して悔い改めの洗礼が宣べ伝えられました。生活全体を——その心も——神様の方に向けるように、神様との良い関係をまたもう一度築き直すようにという神様からの呼びかけです。そのためには、わたしたち一人ひとりがやはり神様と向き合う必要があります。

ここはお御堂ですし、正面には祭壇があって、聖櫃があります。そしてこれからの祈りの中で、先ほどちょっと話した、準備されたパンがイエス様の体として供えられます。神様がそばにいても、わたしたちの心が神様の方に向いていなければ、わたしは神様と良い関係にあるということが言えるでしょうか。

「いや、わたしは今日頑張って教会に来たよ。本当は今日友だちと一緒に遊びたかったけど、今日本当は見たいテレビ番組があったけども、本当は今日は日曜日だから家でゆっくりしたいけど、今日頑張って教会に来たよ。神様にお祈りするために来たよ」と言うかもしれない。でも本当に心も神様の方に向いているでしょうか。「神父様の話長いな。いつ終わるのかな」とか、「今日お昼何食べようかな」とか「今日これから〇〇ちゃんと何して遊ぼうかな」とか、あるいはいろんな雑念などもあるかもしれません。本当にわたしたちのこの体、心、生活の全てを神様の方に向けるっていうことを今日神様ご自身が望んでおられます。そのことが降誕祭を迎える準備の一つになるんだろうと思います。

またもう一つ、降誕祭を迎える準備の一つとして相応しいのは、やはりゆるしの秘跡に与ることです。わたしも含めて、やはりあの部屋に行くことは勇気がいるだろうと思います。「神父様に自分が犯した罪を言わないといけない。言わないと赦してもらえない。嫌だなあ。神父様に聞かれたくないなあ」。人間的な心

情だろうと思います。わたしもそうです。わたしも他の神父様に告解するとき——ゆるしの秘跡に与るとき、「こんなやつと思われるのかな」とか「できれば知られたくない、聞かされたくない」という気持ちがあります。

でも、でも、です。勇気を出して、神の代理者である司祭の前に身を置いて、正直に自分が犯した罪を告白する。「神様ごめんなさい。こういう悪いことしてしまいました。どうぞ赦してください。これからもあなたと一緒に歩いていきたいです。神様と一緒に歩いていきたいです。だから赦してください。そしてこれからはまた神様と一緒に歩めるように、どうぞわたしを助けてください。わたしは弱くて、一人では真っ直ぐに歩むことができません。あなたの助けがどうしても必要です。神様どうぞいつもわたしを支えて、一緒に歩んでください」。そうやって心からの悔い改めの心とともに罪を告白するとき、神様からの赦しのお恵みが与えられ、そしてまたもう一度再出発するお恵みが与えられるんだらうと思います。そしてそのことこそが、神とともに歩む大きな力になるんだらうと思います。

降誕祭を前にして、神がわたしたちと同じ人となられたというこの偉大な神秘を心から喜び祝うために、わたしたちは今準備をしています。「わたしたちの心をあなたの方に向けさせ、わたしの足りないところも弱いところも全てありのままにさらけ出しながら相応しい準備をしていくことができるように」、恵みを願っていきたいと思います。わたしたち一人ひとりの救いを望んでおられる神様がわたしたち一人ひとりに目を留めてくださり、ともに喜びの時を迎えることができますように、必要なお恵みを今日のこのごミサの中でともに祈っていくことにいたしましょう。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>